



スピードスケート  
**熊谷**  
もえ  
**萌**さん



(公財)日本スケート連盟ジュニア強化選手B指定の熊谷萌選手

**Eight Olympians Project Vol.10**  
[エイト・オリンピックス・プロジェクト]  
**TOKYO2020へ、そしてその先に**  
Presented by 盛岡広域スポーツコミッション  
[盛岡市 八幡平市 滝沢市 雫石町 葛巻町 岩手町 紫波町 矢巾町]

# 北京五輪を目指す逸材 進化を続ける17歳

2016年に開催された希望郷いわて国体は、岩手県スポーツ界にさまざまな遺産(レガシー)をもたらした。中でもスピードスケートは、岩手県スケート連盟(竹田浩久会長)が「人材発掘・育成」「指導体制の強化」「安心して競技に打ち込める環境の整備」に一体的に取り組んだ結果、悲願である“スケート王国・岩手”復活が現実のものとなりつつある。今回スポットを当てるのは、4年後の北京冬季オリンピックでの活躍が期待される日本女子短距離界の逸材、熊谷萌選手(盛岡工高3年)だ。



## 植津悦典監督との運命的な出会い

熊谷萌が4年後の北京オリンピック出場を果たすことになれば、スピードスケートでは1952年オスロ五輪男子500メートルに出場した工藤祐信さん(故人)以来県人として2人目、実に70年ぶりの快挙となる。

2000年に滝沢市で生まれた熊谷は、小学校入学と同時に「菓子スピードスケートスポーツ少年団」に入団し、代表を務める父の元(つかさ)さんの指導を受けてめきめきと頭角を現す。

滝沢二中1年の時に、全中でいきなり500メートル準優勝、3年時に念願の優勝を果たした。そして中学卒業後は、盛岡工業高校教諭で、現在は岩手県スケート専門部委員長でもある植津悦典監督の指導を仰ぐため、盛岡工高に進学する。植津監督との出会いは中学3年の秋。

大会のたびに好タイムをたたき出す一方で、腰や膝の度重なる故障に悩まされていた時に、あらゆる角度から適切なアドバイスを与えてくれたのが植津監督だったという。「シーズンを間近に控えて焦る私に、体力づくりから技術論までとても丁寧に教えてくれました。気がついたらシーズンの初戦で自己ベストを大きく上回るタイムが出て自分でもびっくり。植津先生との出会いがなければ、『目標は北京オリンピック』と言えるような選手にはなっていなかったと思います」

植津監督は、現役時代に白樺学園高(北海道)、日大という日本スケート界のエリートコースを歩んだ。縁あって、引退後は岩

■主な成績

2014全中	500M第2位
2015全中	500M第3位
2016全中	500M優勝 1000M第2位
2016ユース五輪	500M第8位
2017全日本ジュニア	500M優勝
2017インターハイ	500M第2位
2017長野国体	500M優勝
2017世界ジュニア	500M第6位
2018ジュニアワールドカップ	500M第4位
2018インターハイ	500M第2位
2018山梨国体	500M優勝(国体2連覇)
2018全日本ジュニア	500M第2位
2018全国高校選抜	500M優勝

(※「全中」全国中学校体育大会)

手で指導者となる道を選び、今日に至っている。ブレない指導理念と選手を見つめる温かい眼差し。そんな植津監督に対する熊谷の信頼感は揺るぎない。

## 豊かな「素質」と恵まれた「環境」との「相乗効果」

熊谷の性格を表わす面白いエピソードがある。盛岡工高に進学すると、誰にも相談せずに応援団に入部し周囲を慌てさせた。「高校野球の応援がしたくて、迷わず入部しました」と屈託なく笑う。

父の元さんから見せていただいたスマホ動画には、今年の夏、球場の応援席最前列でメガホンを片手に盛工応援団をリードする熊谷の姿があった。「気負い」も「てらい」もなく自己表現できるところが魅力であり、アスリートとしての強みでもあるのだろう。

みちのくコカ・コーラボトリングリンク(盛岡市アイズリンク)での平日早朝練習を見学させてもらった。盛岡工高スケート



(左から)熊谷選手の父 熊谷元さん、熊谷萌選手、植津悦典監督

部員は男女合わせて10人ほど。やはり氷上での熊谷は別格だ。シーズンオフにもかかわらず、しなやかさと力強さを兼ね備えたバランスのいい滑りに、思わず見とれてしまう。

「夏場の氷上トレーニングのおかげで不安なくシーズンに入ることができまし、ショートトラックの練習で、自分のコーナリング技術が上達したことを実感できるんです」夏場に氷上で練習できるアドバンテージについて、こう語ってくれた。

植津監督も言う。「通年型スケートリンクの効果は絶大です。素人同然で入部した選手が、2年後にはポイントを期待できるまでに成長してくれるんですから」

恵まれた練習環境と優秀な指導者、そして好きなスポーツに打ち込む選手たちの真剣な表情と時折こぼれる笑顔。

屋内リンクの調整された室温。その冷気とは不釣り合いな「温かな」空間だった。

## 熊谷萌には人をワクワクさせる「何か」がある

「目標とする選手は岡崎朋美さん。一番の理由は最初の100メートルのスピードです」

岡崎朋美といえば、オリンピック出場5回(1998年の長野五輪では銅メダル)、38歳で2010年バンクーバー五輪出場を遂げた超人的な経歴を持つ。「スケートが大好きなので少しでも長く選手を続けたいんです。岡崎さんはいっつか越えたい憧れの人です」

熊谷に今シーズンの目標を聞くと「ワールドカップ出場、世界ジュニア優勝、そしてインターハイ優勝」。平然と言っている。「家庭環境、練習環境、学校生活、指導してくださる先生、チームメイト、そして曾我みなみさんなどリスペクトできる先輩やライバルたちの存在：自分はとても恵まれています。今は植津先生の指導で故障しにくい体作りにも取り組んでいます」

気の早い話だが「北京を目指す熊谷萌に死角はない」と言いたくなるほど落ち着きのあるコメントだ。

最後に、植津監督の言葉を紹介する。「このまま調整が順調にいけば、これまで日本の高校生では誰も成し得なかった国内リンクでの500メートル38秒台も十分狙えます」北京は待ち遠しいが、それ以上に、熊谷萌は人をワクワクさせる。何かを持っていて、選ばれしアスリートの一人に思えてならない。



盛岡広域スポーツコミッションの情報はこちらから